

FM English

BALB/c



I. 授業前の知識

英語で論文を書いたことがない。どうやってより良い文章を書けばいいのかわからない。

II. 授業の目的、到達目標

英語での論文作成やプレゼンテーションに必要な知識や技術を身につける。

III. 授業内容

2019年8月5日(月)

13:00 - 14:00 Writing and Revising a Research Article

14:00 - 15:00 Grammar and Usage

15:00 - 16:00 Punctuation

16:00 - 17:00 Oral Presentation Skills

2019年8月6日(火)

13:00 - 14:30 Sentence Structure

14:30 - 15:30 Effective Paraphrasing

15:30 - 16:00 Journal Selection

2019年8月7日(水)

13:00 - 14:00 Writing Cover Letters and Responses to Reviewers

14:00 - 15:00 Predatory Publishers and Conferences

15:00 - 16:00 Ethics in Research and Publication

2019年8月8日(木)

9:00 - 11:30, 13:00 - 15:30 Student practice presentations

IV. 研究や仕事に役立つ点

いい文章にするにはどうしたらいいのかわからなかったが、この講義を通してどうやって直していけばいいのかわかると明確なアイデアを持つことができたと思う。特に科学論文を書く上で、シンプルに書くこと、重要な情報を確実に伝えることの重要性は普段から感じていて、今回は具体的な方法を教えられたので、実践しようと思った。

Predatory publishers/conferences について話があったが、それらをリストしているウェブサイトを紹介されるなど、後で思い出せば活かせるような知識も得られたので、利用してみたいと思った。(平松)

FM ENGLISH とのことので、4日間かけて英語について何か学ぶのかと思っていましたが、実際には論文作成やプレゼンテーションに必要な能力について講義していただいた。例えば、より分かりやすく簡潔な文章で英文を校正・記述する方法を、役に立つサイトや考え方から教えていただいたので、自分の実際の文章作成に役立てられそうだと感じた。また、日本人がやりがちな「ミスではないがおかしい英文(Based on my

study, ～～など)」の例と、それを代わりにどう表現するかといったフレーズ例も有用であった。(一戸)

実際に多くの英語論文の査読をしている先生の視点から、日本人に起こりやすい英語文法の誤りや注意すべき点を教わることができたことが大変有意義であった。しかし、不特定多数の専門家や一般市民に対し発表する際、英語に限らず、発表する内容が聴衆の理解度に合っているかを考えながら伝える必要性があり、その難しさも感じた。専門的な要素と一般的な要素をバランスよく取り入れることで、研究の意義が多くの人に効果的に伝えられるようになることを今後の課題にしていきたい。(田所)

V. 影響を受けたこと

スライドを作るときのデザインやレイアウトについては、アドバイスされて気を付けるようになった。特に顕微鏡画像の見せ方については、フィードバックを受けて翌日のFM夏祭りのスライドに反映した(図)。プレゼンの時 Hesitation noise が多いとの指摘があったので、意識して直そうと思った。最後の時間には、ほかのプログラム生からも学べたことは多かったと思う。違うスタイルのプレゼンばかりだったので参考になったし、いいところは自分のプレゼンにも取り入れようと思った。プレゼンの内容ではなく、スタイルについてのアドバイスをもらう機会は少なかったので、勉強になった。(平松)

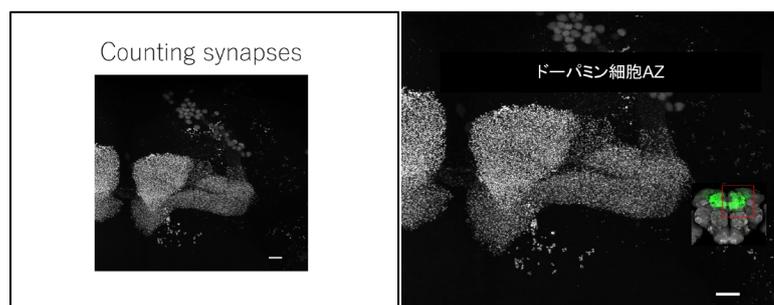


図1：スライドのレイアウト顕微鏡画像の見せ方

Practice Presentation (左) と FM 夏祭り (右) で使ったスライド。画像のサイズを大きくし、空白部分にリファレンス画像を配置した。

用意したプレゼンテーションについて、良かった点と良くなかった点を指摘したいただいたこと。自分がレーザーポインタを多用しすぎである点や、図を効果的に見

せる工夫が足りないことなどを自覚することができた。また実際に人前で話してみ
て、話しがおろそかになってしまう部分があり、練習の重要性を感じた。(一戸)

伝える際の言葉の抑揚のつけ方とスライドの見せ方のタイミングについて学ぶこと
ができた。文法的な抑揚、強調の仕方はもちろんのこと、最終的には伝え手の熱意が
最も重要かつ、それを裏付ける十分な準備の必要性を感じた。(田所)

VI. 来年度以降の改善点

授業でプレゼンのスライドについてのレクチャーもあったが、直すための時間がな
かった。 / プレゼンテーションの評価基準、求められることについての事前の情報が
すくなかった。内容よりも、プレゼンのスタイルが重視されていたので、学会発表を
想定したスライドを作った人は多い情報量を伝わりやすくまとめるのに苦労してい
た。

VII. 授業の限界

講師とのコミュニケーションが英語でしかとれないので、質問しにくい。 / フィー
ドバックを受けるのが最後の発表の時間だけなので、もらったアドバイスを自分のプ
レゼンに反映できているか心配。

VIII. まとめ

講義の中では、論文やプレゼンテーションで使える具体的で有用なテクニックが多
く紹介された。最後のプレゼン練習の時間で受けたアドバイスをもとに、自分のプレ
ゼンの仕方について見直すことができたのは有意義であった。しかし、英語での作文
や発表の技術はまだまだ完璧とは言えない。今回学んだことを活かしていくには、継
続した努力が必要である。